



2025年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年5月14日

上場会社名 ジャパンクラフトホールディングス株式会社 上場取引所 東 名
コード番号 7135 URL https://www.jcraft-hd.co.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀 孝子
問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 企画部長 (氏名) 若園 和章 TEL 052-725-8815
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年6月期第3四半期の連結業績（2024年7月1日～2025年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期第3四半期	10,588	△10.7	111	—	65	—	△170	—
2024年6月期第3四半期	11,856	△8.8	△1,187	—	△1,191	—	△1,655	—

(注) 包括利益 2025年6月期第3四半期 △168百万円 (—%) 2024年6月期第3四半期 △1,628百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年6月期第3四半期	△4.58	—
2024年6月期第3四半期	△54.30	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年6月期第3四半期	11,716	3,785	32.1
2024年6月期	11,289	2,966	26.3

(参考) 自己資本 2025年6月期第3四半期 3,762百万円 2024年6月期 2,966百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年6月期	—	0.00	—	—	—
2025年6月期（予想）	—	—	—	3.00	3.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年6月期の連結業績予想（2024年7月1日～2025年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,500	△5.8	80	—	20	—	△120	—	△3.21

(注) 1 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 ー 社 (社名) 、除外 ー 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年6月期3Q	37,341,680株	2024年6月期	30,501,680株
② 期末自己株式数	2025年6月期3Q	20,948株	2024年6月期	20,946株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年6月期3Q	37,320,733株	2024年6月期3Q	30,480,736株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 3 ページ「1. 経営成績の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(四半期連結貸借対照表に関する注記)	11
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景とした個人消費の回復やインバウンド消費の拡大により緩やかな回復基調が続きました。一方で物価上昇や米国の経済政策等による景気の下振れリスクが存在し、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属する手芸業界及び出版業界においても、原材料価格の高騰によるコスト上昇に加え、手芸コーナーの充実を図る百元ショップとの競合激化や趣味の多様化、愛好者の高齢化によるユーザー減少など、経営環境は一層厳しさを増しております。

このような状況のなか、当社は、グループ経営理念「手づくりを通して豊かな心を育み幸せを紡ぐ企業グループへ」とその理念に基づいたサステナビリティ方針を掲げ、環境・社会・ガバナンス面での各種課題への継続的な取り組みを通じて持続可能な社会の実現に貢献したいと考えております。このような考えのもと、足元の経営環境を踏まえ、中期経営計画において成長の3本柱として掲げた事業力強化、M&A・アライアンス推進、経営体質の強化に努めてまいりました。

事業力強化では、グループ全体で商品価格適正化による収益基盤の改善に取り組むとともに、売上増強に向けB to B事業売上ベースの向上に努めております。B to B事業では大手ホームセンターや書店への商品導入及び商業施設等でのイベント開催提案を行い、着実に売上を伸ばしておりますが、継続的な売上につながる提案を強化するとともに、営業メンバーに対する社内サポート体制を整備し営業力の底上げを推進しております。今後のさらなるB to B事業拡大を目指し、引き続き現状体制の改善に努めてまいります。

M&A・アライアンス推進では、2024年7月1日にM&A及び資本・業務提携に係る資金調達を目的とした新株予約権を発行しております。当社グループが保有する顧客基盤を活用し、お客様のニーズに合わせた販売網整備と商品展開、情報発信を行うべく、当社グループとの事業シナジーが創出可能な企業を中心に候補企業の選定を進めております。また、業務提携契約を締結した株式会社エポック社との取り組みでは、シルバニアファミリーのきせかえコスチュームを作製するワークショップやポップアップイベントの開催を継続して実施し、関連商品売上は好調に推移しております。

経営体質の強化では、小売事業において基幹システムを導入し、情報の一元管理による迅速な経営判断やさらなる業務効率化を進めております。

引き続きグループ全体でコストの見直し・適正化を図り、今期営業黒字化達成に向けた取り組みを強化してまいります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高105億88百万円（前年同四半期比10.7%減）、営業利益1億11百万円（前年同四半期11億87百万円の営業損失）、経常利益65百万円（前年同四半期11億91百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億70百万円（前年同四半期16億55百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

(小売事業)

小売事業では、藤久株式会社（以下、「藤久」という。）が営む「クラフトハートトーカー」ブランドを中心とした店舗とECにおいて様々な施策に取り組んでまいりました。百元ショップとの競合激化が進む中、初心者層も気軽に購入できるように、品質の良さと低価格を両立したPB商品「ハートプライス」シリーズを開発しました。シリーズ第1弾の商品としてトレンドの推し活グッズ制作にも最適なりボン・レースを展開しており、売上は好調に推移しております。今後も顧客ニーズを分析し、商品展開を拡大予定です。さらに、IPコンテンツを活用した商品開発を推進することで、新たな顧客層にアプローチし裾野拡大に努めております。

店舗集客力強化に向けては、藤久が運営する情報サイト「クラフトタウン」を「クラフトハートトーカー」としてリニューアルし、これまでのサービスに加えて店舗検索及びワークショップ検索機能が向上しました。収益構造改善に向けては、引き続き割引価格の見直しによる粗利の確保や販管費の総点検等を推進しております。前期に遂行した不採算店舗全廃による店舗網再編は、今期も継続して個店採算の検証を進め、関東地区5店舗、中部地区3店舗、近畿地区1店舗、中国地区1店舗、九州地区1店舗の閉鎖を実施し、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は215店舗となりました。

これらの結果、小売事業の売上高は82億62百万円（前年同四半期比12.9%減）、営業利益は2億94百万円（前年同四半期は9億40百万円の営業損失）となりました。

(出版・教育事業)

出版・教育事業では、株式会社日本ヴォーグ社(以下、「日本ヴォーグ社」という。)を中心に様々な施策に取り組んでまいりました。日本ヴォーグ社では、2024年11月に開催6度目となる糸のマーケットイベント「6・イトマ!」を日本ヴォーグ社本社内のクラフティングアートギャラリーにて開催し、2日間で過去最大の来場者数を記録し大盛況となりました。

2025年1月には創業70周年の感謝を込めて「70周年ありがとう 日本ヴォーグ社祭」を同所にて開催しました。出版物の展示やワークショップ、物販等を実施し、2日間で約1,400名が来場し、顧客との接点増加に寄与しました。

出版業界の縮小により厳しい状況が続いておりますが、編み物ブームに後押しされ編み物関連の既刊本売上は好調に推移しております。株式会社ヴォーグ学園(以下、『ヴォーグ学園』という。)では、不採算部門であった天神校を閉鎖し、ヴォーグ学園全体でも受講生数が減少しましたが、状況に対応したキャンペーンの実施により受講生数は一定の回復が見られました。

これらの結果、出版・教育事業の売上高は23億77百万円(前年同四半期比2.7%減)、営業利益は1百万円(前年同四半期は28百万円の営業損失)となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ4億27百万円増加し、117億16百万円となりました。流動資産は4億79百万円増加し、77億91百万円となりました。流動資産の増加は、現金及び預金が4億65百万円、商品及び製品が2億42百万円増加したことによるものであります。固定資産は52百万円減少し、39億25百万円となりました。固定資産の減少は、差入保証金が44百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ3億91百万円減少し、79億31百万円となりました。流動負債は4億49百万円減少し、56億70百万円となりました。流動負債の減少は、短期借入金が2億50百万円増加したものの、契約負債が2億36百万円、その他流動負債が3億94百万円減少したことによるものであります。固定負債は58百万円増加し、22億61百万円となりました。固定負債の増加は、長期借入金が78百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ8億18百万円増加し、37億85百万円となりました。これは主に、2024年7月1日付の第三者割当増資による株式発行に伴い資本金及び資本準備金がそれぞれ4億82百万円増加したことによるものであります。

なお、2024年9月26日開催の定時株主総会決議により、同日を効力発生日として、その他資本剰余金を19億41百万円減少させ、同額を繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損填補を行っております。

さらに2024年9月26日開催の定時株主総会決議により、2024年10月7日を効力日として、資本金及び資本準備金をそれぞれ4億82百万円減少させ、全額をその他資本剰余金に振り替えております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年6月期の連結業績予想につきましては、2024年8月8日の「2024年6月期 決算短信」で公表いたしました通期連結業績予想からの変更はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の解消について

当社グループは、2022年6月期から3期連続で営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりました。当社グループは、当該状況を解消すべく、構造改革に取り組んでまいりました。

収益改善面においては、前連結会計年度に不採算店舗の閉鎖、ECサイト再編による既存販売チャネルの効率化徹底及び全社的な人員体制の適正化が完了しており、主力の小売事業の売上増強・黒字化のため、商品販売価格の適正化による粗利の確保、B to B事業の本格展開による新規販売チャネル開拓を進めた結果、当第3四半期連結累計期間においては営業利益1億11百万円及び経常利益65百万円を計上いたしました。また、第4四半期連結累計期間以降も引き続き営業利益の計上を見込んでおります。

資金面においては、当社を借入人として運転資金の安定的かつ機動的な調達を可能とするタームアウト型コミットメントライン契約（貸付極度額29億円）を締結しておりますが（当連結会計期間末における借入実行残高14億50百万円、未実行残高14億50百万円）、さらに安定した財務基盤の再構築を図ると同時に、当社グループとの事業シナジーを有する企業との連携が必要であると判断し、2024年5月28日開催の取締役会及び2024年6月28日開催の臨時株主総会において、合同会社ルビィを割当先とする第三者割当による株式（以下、「本株式」という。）及び第1回新株予約権の発行について決議いたしました。本株式の発行については、2024年7月1日に払込手続きが完了し、9億64百万円の資金を調達しており、当面の資金繰りに問題はないと判断しております。

以上を踏まえ、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は、現時点において存在していないものと判断し、「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載を解消いたしました。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,907,672	2,372,738
受取手形及び売掛金	876,878	800,959
商品及び製品	3,829,441	4,072,238
仕掛品	22,441	25,623
貯蔵品	4,561	3,599
その他	673,320	518,476
貸倒引当金	△1,941	△1,810
流動資産合計	7,312,374	7,791,825
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	779,583	751,432
土地	2,186,619	2,186,619
その他 (純額)	31,705	38,928
有形固定資産合計	2,997,908	2,976,980
無形固定資産	26,147	36,902
投資その他の資産		
差入保証金	769,584	725,085
その他	183,706	186,158
投資その他の資産合計	953,290	911,244
固定資産合計	3,977,345	3,925,127
資産合計	11,289,720	11,716,952

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	584,097	636,238
電子記録債務	565,673	603,596
短期借入金	2,230,000	2,480,000
1年内償還予定の社債	40,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	421,230	413,896
未払法人税等	131,445	70,516
契約負債	753,528	517,094
賞与引当金	25,698	23,632
株主優待引当金	71,380	45,301
店舗閉鎖損失引当金	63,084	30,851
資産除去債務	54,252	23,560
その他	1,180,110	785,957
流動負債合計	6,120,500	5,670,645
固定負債		
社債	80,000	50,000
長期借入金	564,651	642,803
繰延税金負債	535,753	538,823
退職給付に係る負債	384,717	392,626
資産除去債務	509,233	517,716
その他	128,068	119,285
固定負債合計	2,202,423	2,261,254
負債合計	8,322,924	7,931,900
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,332,695	355,761
利益剰余金	1,483,325	3,253,871
自己株式	△7,747	△7,747
株主資本合計	2,908,274	3,701,885
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	58,522	60,926
その他の包括利益累計額合計	58,522	60,926
新株予約権	—	22,240
純資産合計	2,966,796	3,785,052
負債純資産合計	11,289,720	11,716,952

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)
売上高	11,856,860	10,588,063
売上原価	5,455,521	4,482,100
売上総利益	6,401,338	6,105,963
販売費及び一般管理費	7,588,359	5,994,797
営業利益又は営業損失(△)	△1,187,021	111,165
営業外収益		
受取利息	1,052	1,398
受取配当金	2,066	2,538
受取保険金	1,773	62
保険解約返戻金	12,701	—
その他	6,657	5,790
営業外収益合計	24,252	9,789
営業外費用		
支払利息	25,367	45,961
株式交付費	—	6,225
その他	3,373	3,185
営業外費用合計	28,741	55,372
経常利益又は経常損失(△)	△1,191,509	65,582
特別損失		
減損損失	177,245	145,693
店舗閉鎖損失引当金繰入額	42,320	—
事業構造改善引当金繰入額	42,205	—
事業構造改善費用	96,925	—
固定資産除却損	—	817
特別損失合計	358,697	146,511
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,550,207	△80,928
法人税、住民税及び事業税	114,857	86,134
法人税等調整額	△9,896	3,765
法人税等合計	104,960	89,900
四半期純損失(△)	△1,655,167	△170,828
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,655,167	△170,828

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)
四半期純損失(△)	△1,655,167	△170,828
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	26,375	2,404
その他の包括利益合計	26,375	2,404
四半期包括利益	△1,628,792	△168,424
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,628,792	△168,424
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年7月1日 至 2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	小売事業	出版・教育事業			
売上高					
外部顧客への売上高	9,478,823	2,378,036	11,856,860	—	11,856,860
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,468	65,350	70,818	△70,818	—
計	9,484,292	2,443,386	11,927,679	△70,818	11,856,860
セグメント損失(△)	△940,391	△28,302	△968,693	△218,327	△1,187,021

(注) 1 セグメント損失(△)の調整額△218,327千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△211,746千円及び未実現利益の調整額△6,580千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2 セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、「小売事業」セグメント176,777千円、「出版・教育事業」セグメント468千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間 (自 2024年7月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	小売事業	出版・教育事業			
売上高					
外部顧客への売上高	8,261,323	2,326,739	10,588,063	—	10,588,063
セグメント間の内部 売上高又は振替高	701	50,632	51,333	△51,333	—
計	8,262,025	2,377,371	10,639,397	△51,333	10,588,063
セグメント利益	294,458	1,767	296,226	△185,060	111,165

(注) 1 セグメント利益の調整額△185,060千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△185,773千円及び未実現利益の調整額713千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、「小売事業」セグメント145,334千円、「出版・教育事業」セグメント358千円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年7月1日付で、合同会社ルビィから第三者割当増資の払込みを受けました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本金及び資本準備金がそれぞれ482,220千円増加しております。

また、2024年9月26日開催の定時株主総会決議により、同日を効力発生日として、会社法第452条の規定に基づき、その他資本剰余金を1,941,374千円減少させ、同額を繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損填補を行っております。

さらに2024年9月26日開催の定時株主総会決議により、2024年10月7日を効力日として、資本金及び資本準備金をそれぞれ482,220千円減少させ、全額をその他資本剰余金に振り替えております。

これらの結果により、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が100,000千円、資本剰余金が355,761千円、利益剰余金が3,253,871千円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表に関する注記)

1. 当座貸越契約 (借手側)

連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
当座貸越極度額	1,240,000千円	1,240,000千円
借入実行残高	630,000	630,000
差引額	610,000	610,000

2. シンジケートローン

当社においては、運転資金を安定的かつ機動的に調達することを目的として、2023年2月24日付で名古屋銀行をアレンジャーとする金融機関4行によるタームアウト型コミットメントライン契約を締結しております。この契約には以下の財務維持要件が付されており、当中間連結会計期間において抵触いたしましたので、金利の引き上げのみがありました。

- ① 2023年6月に終了する決算期及びそれ以降に終了する借入人の各年度の決算期の末日における借入人の連結の貸借対照表における純資産の部の金額が、それぞれ2022年6月に終了する決算期の末日における借入人の連結の貸借対照表における純資産の部の金額の75%の金額以上であること。
- ② 2024年6月に終了する決算期及びそれ以降に終了する借入人の各年度の決算期に係る借入人の連結の損益計算書に示される償却前経常損益が、それぞれ2期連続して損失とならないこと。なお、初回判定は2023年6月期決算期及び2024年6月期決算期とする。

また、これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年3月31日)
シンジケートローン契約極度額	2,900,000千円	2,900,000千円
借入実行残高	1,200,000	1,450,000
差引額	1,700,000	1,450,000

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費 (無形固定資産に係る償却費を含む。) は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年7月1日 至2024年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年7月1日 至2025年3月31日)
減価償却費	61,966千円	55,710千円